

平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における今宮中学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成29年4月から7月末までの期間に、2年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の原則として全生徒
- ・今宮中学校では、2年生 72名

3 調査内容

- ・生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
中学校調査では、以下の種目を実施する。
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ（※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択）
 - イ 質問紙調査
運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「生徒質問紙調査」という。）を実施する。

平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

今宮	中学校	生徒数	72
----	-----	-----	----

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	26.89	25.86	36.14	52.79	452.00	72.81	8.64	181.28	19.60	36.48
大阪市	29.00	27.45	41.55	51.39	409.58	84.05	8.10	189.74	20.39	41.00
全国	28.89	27.45	43.20	51.89	391.23	85.99	7.99	194.54	20.56	42.11
女子	22.55	22.55	49.30	46.36	-	51.16	9.22	161.33	11.61	46.81
大阪市	24.11	23.81	44.70	46.89	303.77	57.92	8.95	165.67	13.06	49.27
全国	23.82	23.73	45.86	46.76	287.36	59.14	8.80	168.57	12.96	49.97

結果の概要

男子については、全国平均を上回っているのは反復横跳びだけであったが、一年次の成績から見れば、20mシャトルラン、立ち幅跳び、握力の記録はよく伸びている。

女子については、長座体前屈以外の種目は全国平均・大阪市平均を下回った。特に走力が弱い結果であった。20mシャトルラン、50m走は本学年の前年度の平均値をも下回っていた。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

男子は授業ごとの補強運動を行い、体力の向上に取り組んできたが、結果が出なかった。生徒が体力向上の必要性を認識したうえで、意識を持って補強運動等に取り組めるように更なる工夫をしていきたい。

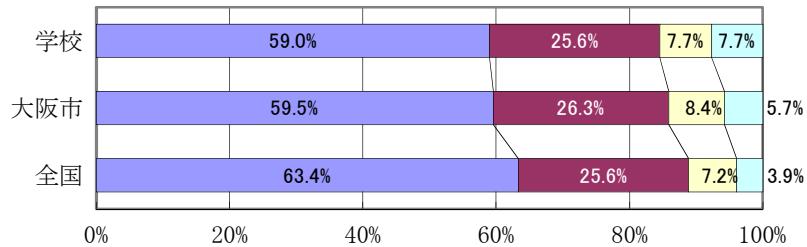
女子は瞬発力、敏捷性の向上を狙い、補強運動の種類を増やし、取り組んできたため、反復横跳びや立ち幅跳びの記録は前年度より向上している。しかし、持久力、走力が伸びていないため、運動量を増やす必要があると考える。また、二極化が進んできており、運動が得意でない生徒、体力のない生徒が意欲的に運動に取り組めるように工夫する必要がある。

運動やスポーツについて（男子）

質問番号	質問事項
------	------

1

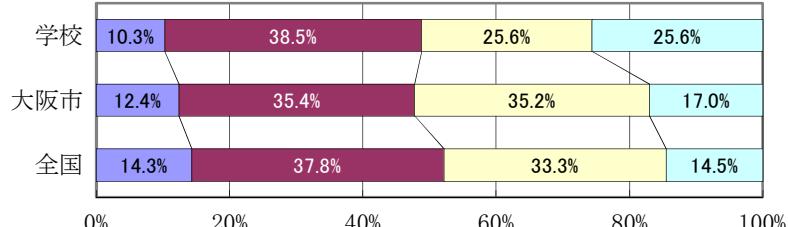
運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすること好きですか



- 好き
- やや好き
- やややきらい
- やきらい

2

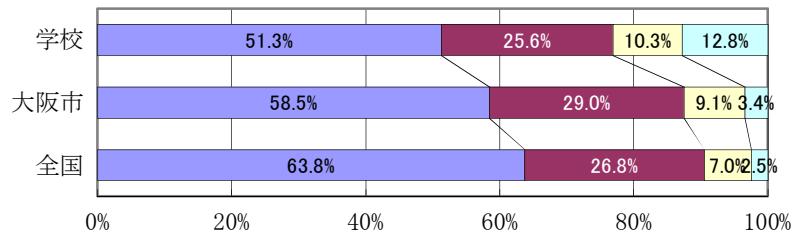
自分の体力・運動能力に自信がありますか



- 自信がある
- やや自信がある
- あまり自信がない
- 自信がない

3

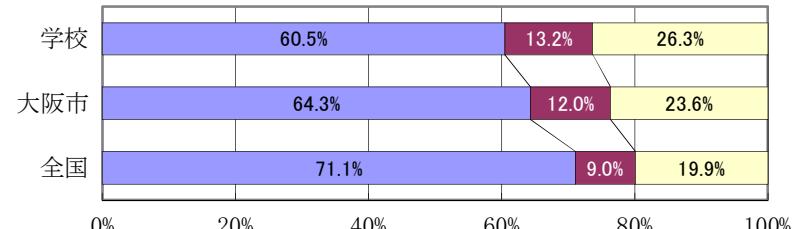
あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか



- 大切
- やや大切
- あまり大切ではない
- 大切ではない

4

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか



- 思う
- 思わない
- わからない
- その他

成果と課題

運動が好きな生徒と苦手な生徒に二分されている状況が見える。ハードな活動をしている部活動への参加率も低い状況にある。

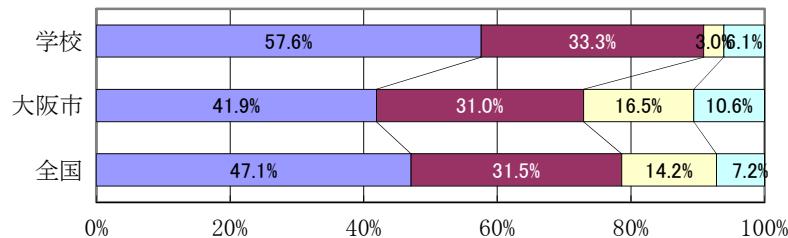
今後の取組

運動と健康、生徒の将来を考えたとき、卒業後のスポーツ活動の意識を高めることは非常に重要である。そのために中学校でできることとして、部活動の編成は重要である。部活の改革を進めていきたい。

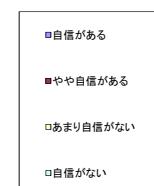
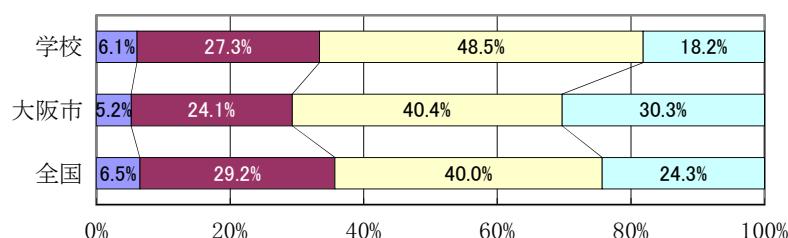
運動やスポーツについて（女子）

質問番号	質問事項
------	------

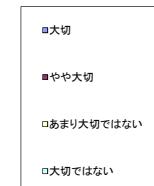
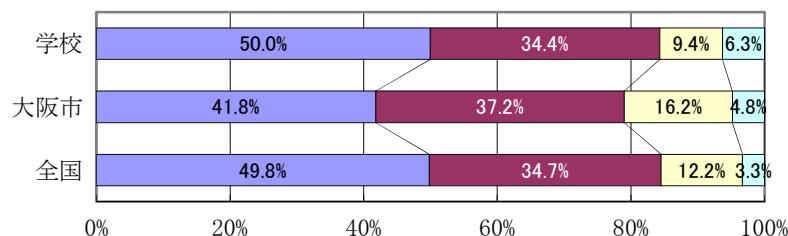
1
運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすること好きですか



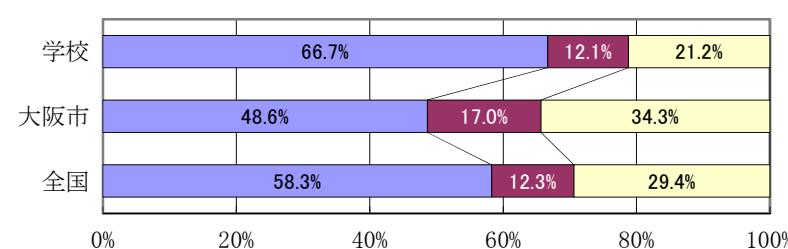
2
自分の体力・運動能力に自信がありますか



3
あなたにとって運動やスポーツは大切なものですか



4
中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか



成果と課題

運動やスポーツをすることは好きで、大切なものであると感じている生徒は多い。自分の体力・運動能力にはやや自信があり、中学校卒業後も取り組みたいとは考えている。

今後の取組

成果と課題に見られるように、運動やスポーツは一定好きであるし、大切であると考えてはいるものの、実際の体力・運動能力に結びついていない部分をどうやって繋げていくか。

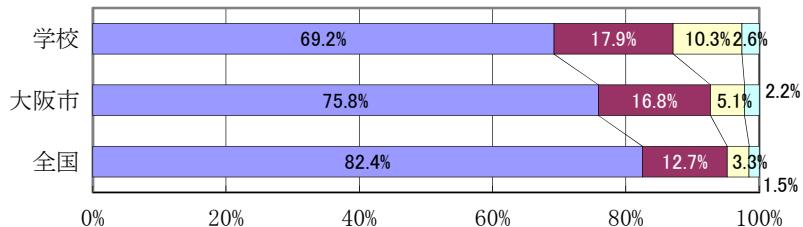
気持ちはあるが、どうして良いか分からず生徒たちへの体力・運動能力向上のための工夫をする必要がある。

ふだんの生活について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

7

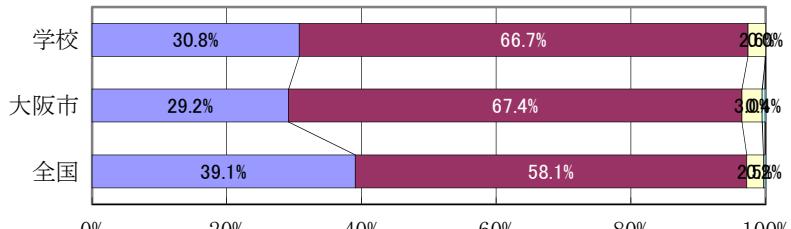
朝食は毎日食べますか
(学校が休みの日も含める)



- 毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

8

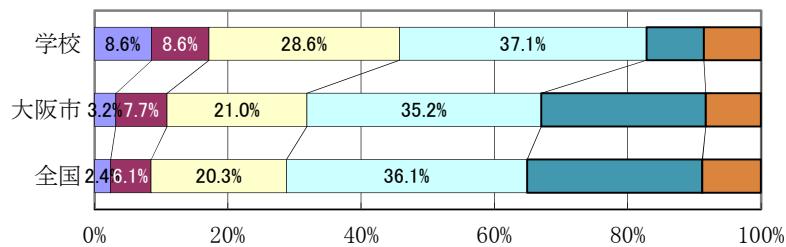
夕食は毎日食べますか(学
校が休みの日も含める)



- 毎日決まった時間に食べる
- 時間は決まっていないが毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

9

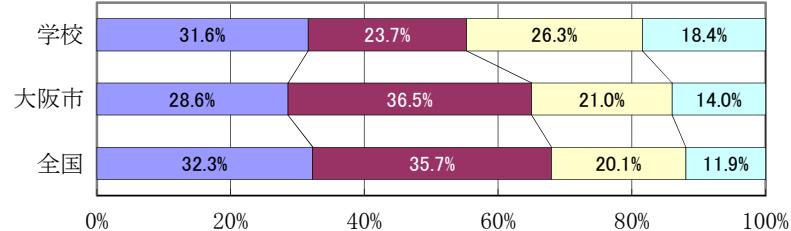
毎日どのくらい寝ています
か



- 10時間以上
- 9時間以上10時間未満
- 8時間以上9時間未満
- 7時間以上8時間未満
- 6時間以上7時間未満
- 6時間未満

12

放課後や学校が休みの日
に、運動部活動や地域ス
ポーツクラブ以外で運動や
スポーツをすることがありますか



- よくある
- ときどきある
- あまりない
- 全くない

成果と課題

アンケートの結果から見えてくるように、睡眠時間が長い→寝る時刻が遅いから起きる時刻も遅くなる→遅刻しないように、朝食を取らずに登校する…という流れが見て取れる。
家庭環境の厳しい生徒も少なからずおり、対策が必要である。

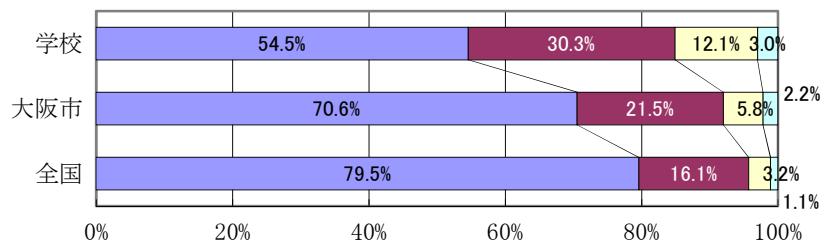
今後の取組

本校の一番の課題である「基本的生活習慣」に対する指導を家庭とも連携しながら継続して行う。生徒への啓発もさらに続ける。

ふだんの生活について（女子）

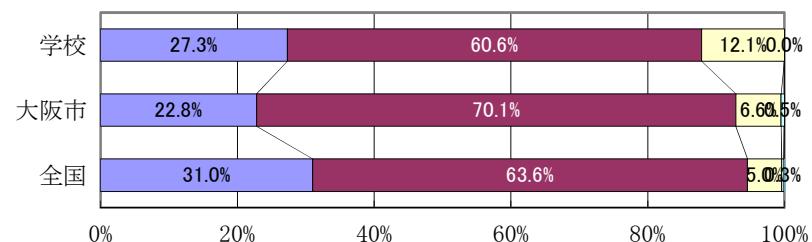
質問番号	質問事項
------	------

7
朝食は毎日食べますか
(学校が休みの日も含める)



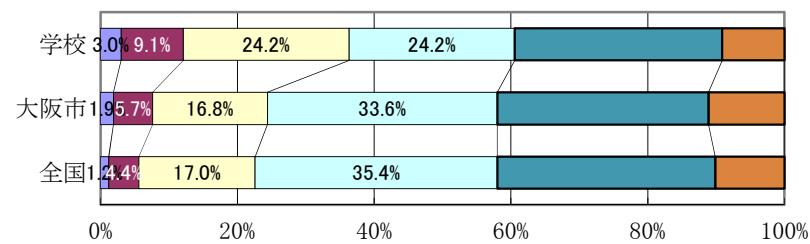
- 毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

8
夕食は毎日食べますか(学校が休みの日も含める)



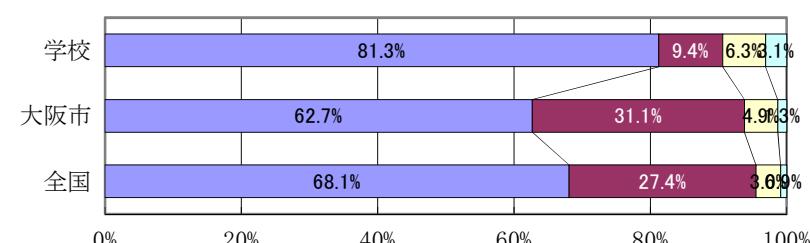
- 毎日決まった時間に食べる
- 時間は決まっていないが毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

9
毎日どのくらい寝ていますか



- 10時間以上
- 9時間以上10時間未満
- 8時間以上9時間未満
- 7時間以上8時間未満
- 6時間以上7時間未満
- 6時間未満

15
あなたが健康でいるために運動はどのくらい大切だと考えていますか



- 大切
- やや大切
- あまり大切ではない
- 大切ではない

成果と課題

食事を毎日食べない生徒の割合が、全国・大阪市平均よりも高い。これは本校の長年の課題である。睡眠時間は十分な生徒の割合は高く、健康のために運動は大切なものだと考えている生徒の割合も高い。
基本的生活習慣全般にわたって調査し、課題を更に浮かび上がらせる必要がある。

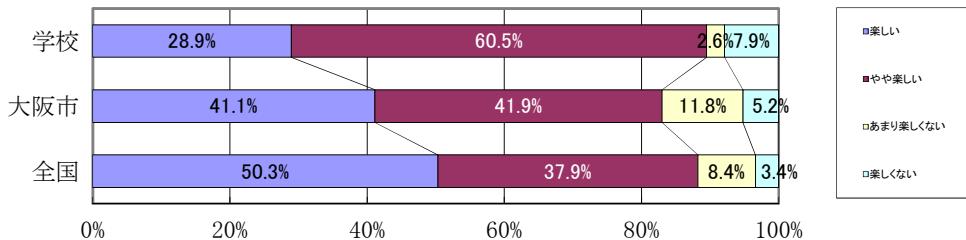
今後の取組

食事と健康、体力の向上の関係について、理解を深め、実践できるための取り組みが必要である。さらに、基本的生活習慣全体を見直しながら、その他の課題についても対策と工夫が必要であると考える。

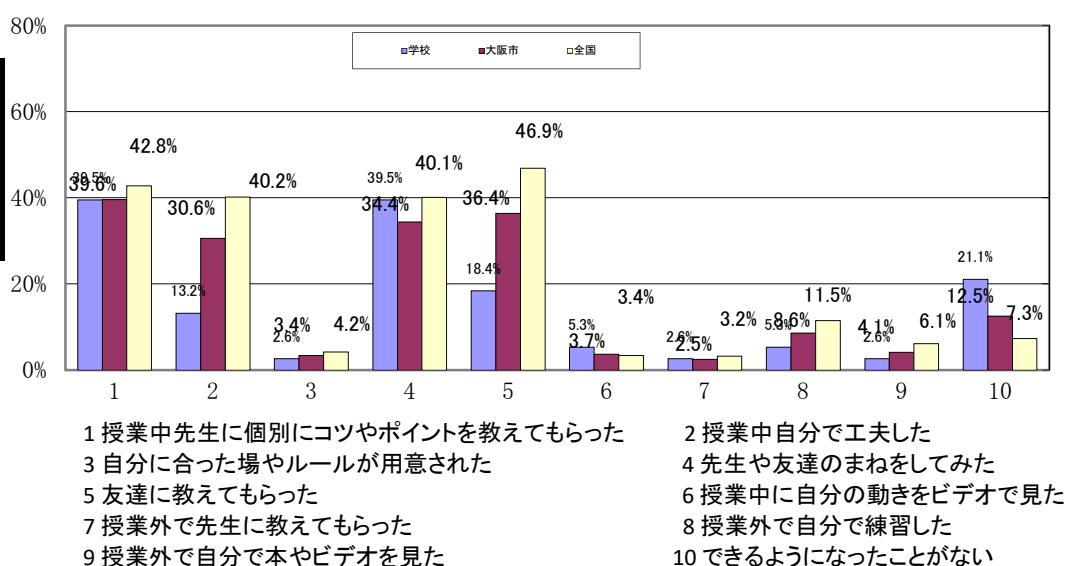
保健体育の授業について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

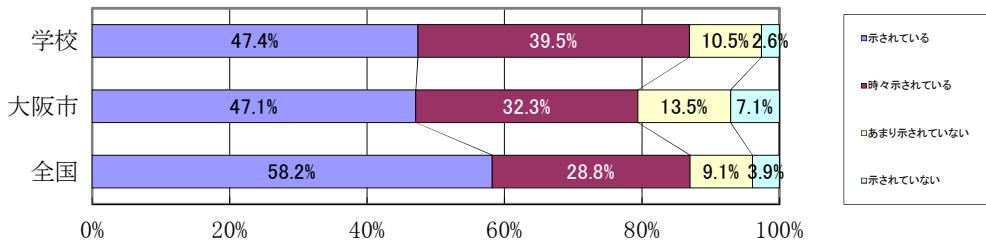
18	保健体育の授業は楽しいですか
----	----------------



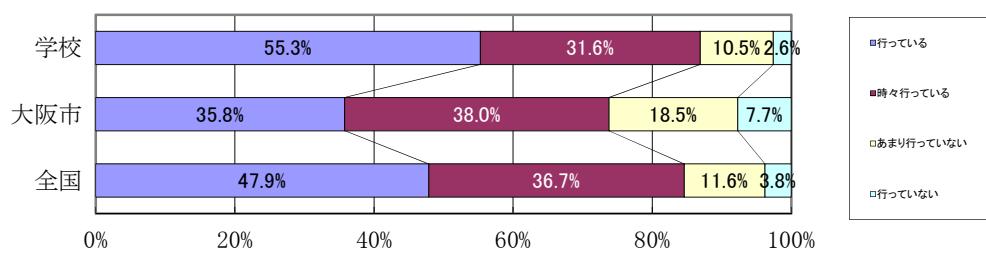
23	これまでの体育の授業で「できなかつたができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか
----	---



19	普段の保健体育の授業では、授業のはじめに授業の目標が示されていますか
----	------------------------------------



21	普段の保健体育の授業では、ともだちと助け合ったり、役割を果たすような活動を行っていますか
----	--



成果と課題

質問1にもつながるが、運動そのものが苦手な生徒が多いという根本的な問題がある。運動やスポーツに親しみが持てるような授業展開の必要がある。「やや楽しい」も含めれば肯定的な回答は全国、大阪市より高い。

質問21に関しては、他の人の試技を見る。友だち同士で話し合うなど取り組んでいるので、それなりの成果が出ていると推察する。

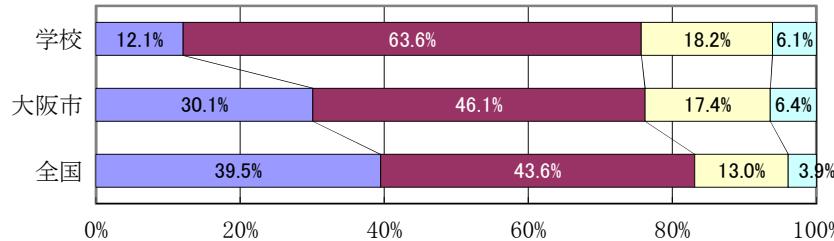
今後の取組

教科がら、安全面のこともあり、真剣に取り組む必要性もある中で授業の中に厳しさも必要だが、その中にも楽しさを感じられる授業づくりを心がけていきたい。

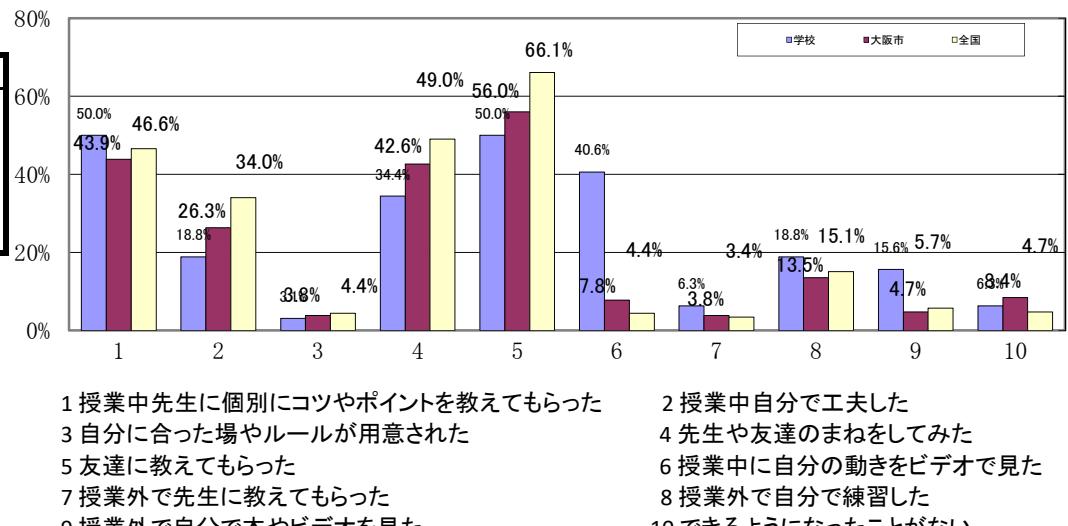
保健体育の授業について（女子）

質問番号	質問事項
------	------

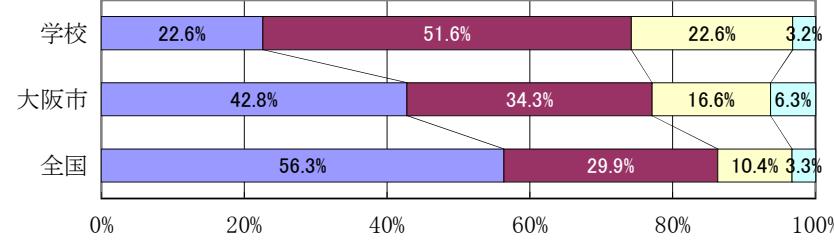
18
保健体育の授業は楽しいですか



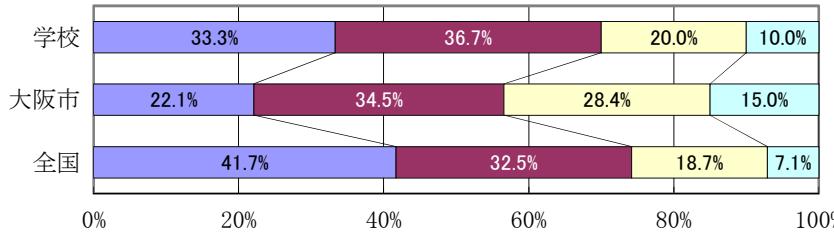
23
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



19
普段の保健体育の授業では、授業のはじめに授業の目標が示されていますか



20
普段の保健体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っていますか



成果と課題

「保健体育の授業は楽しい」「授業のはじめに目標が示されている」と答えた生徒の割合は、全国・大阪市平均よりも低い。「できなかったことができるようになった」きっかけは、「授業中、先生や友だちに教えてもらった」と答えた生徒が多い。

今後の取組

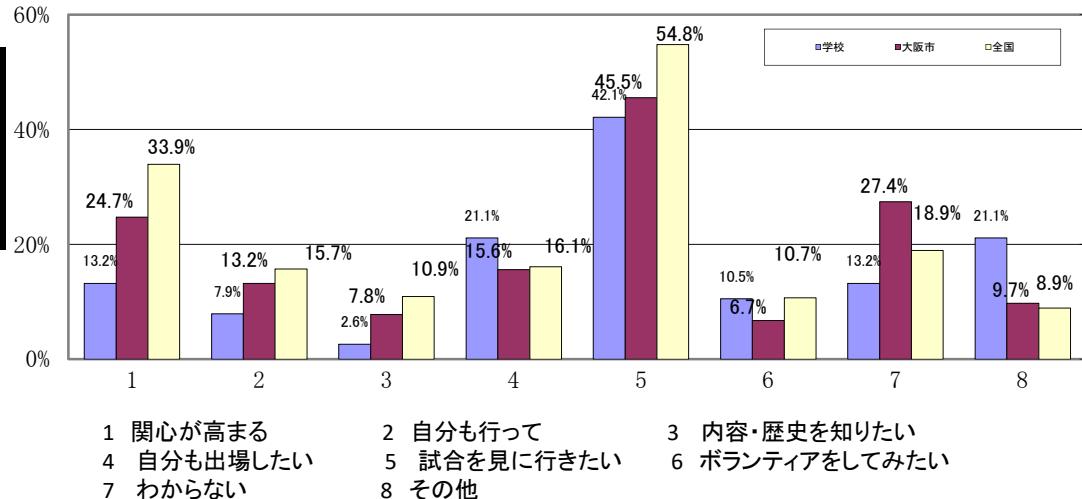
授業の基本形である、はじめの目標提示、終わりの振り返りをしっかりと行う。その上で、授業の目標や自己課題を強く認識させながら、自ら工夫して授業に取り組めるように工夫する。

その他（男子）

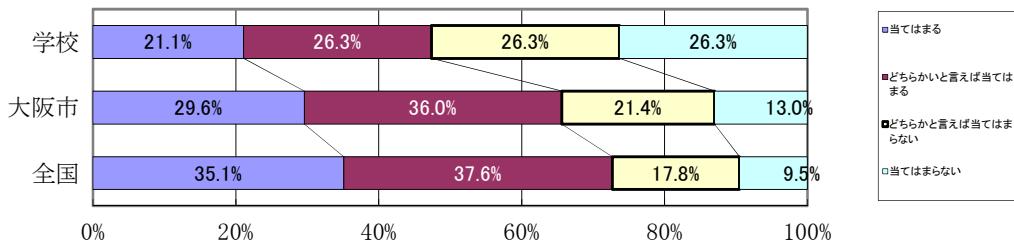
質問番号

質問事項

29
オリンピック・パラリンピックへの気持ち



32
自分に、良いところがあると思う



成果と課題

オリンピック・パラリンピックへの関心は総じてあまり高くない傾向が見られる。大阪で行うとしたらまだ少し違うかもしれないが、東京と言うだけで、身近に感じられないのかもしれない。

本校生徒は、自己肯定感が低い傾向にあり、様々な取り組みの中で自己肯定感を高めることをめざしている。今後とも継続的に取り組んでいきたい。

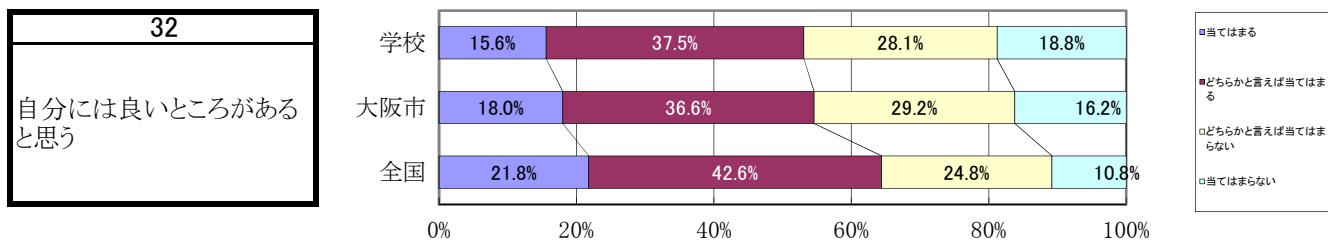
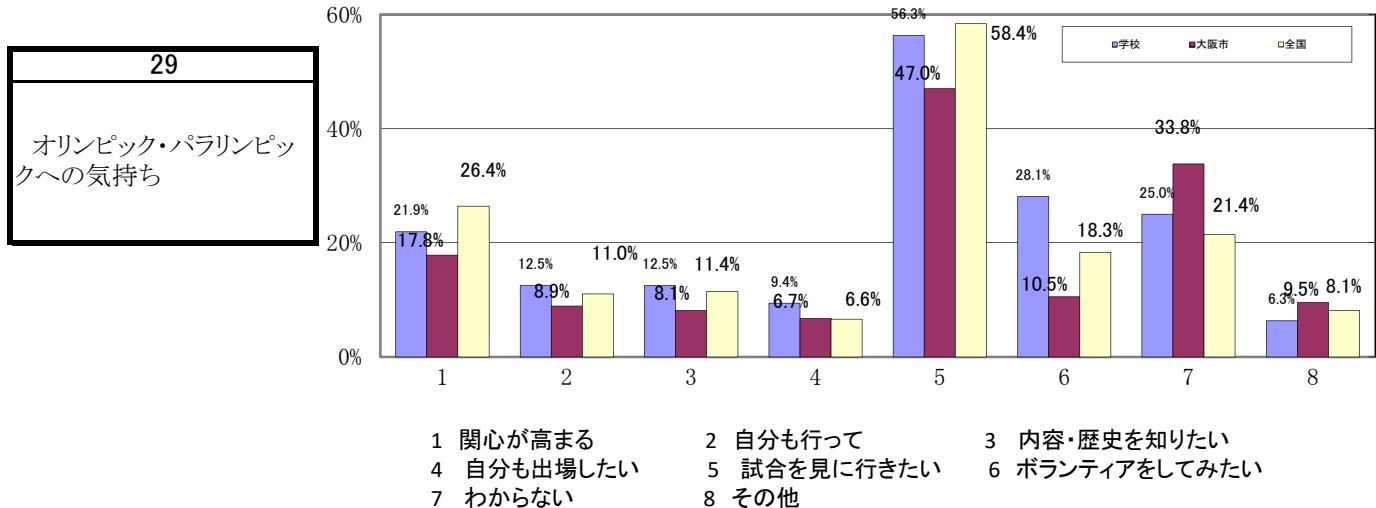
今後の取組

成果と課題でも書いたが、学校での様々な取り組みの中で自己肯定感を高めるような指導を継続的に進めていきたい。

また、いつも「褒める」という視点を忘れないようにしていきたい。

その他（女子）

質問番号	質問事項
------	------



成果と課題

オリンピック、パラリンピックへの関心は全国平均に比べると低いが、大阪市平均よりは高い。「自分には良いところがあると思う」生徒の割合は、全国・大阪市平均よりも低い。本校生徒については、自己肯定感が高くない傾向にある。それをどのように高めていくのかは、大きな課題の一つである。

今後の取組

オリンピック2020東京大会、東京2020パラリンピック大会や競技について調べたり、関連のイベント等に参加したりすることで、努力することにより、満足感や達成感を得るという体験ができるよう工夫していく。数多くの満足感、達成感を経験することで、自己肯定感の向上につながるはずである。